



入本道

吉舟軒外史

1本  
2478  
253



門 14  
號 2478  
卷 253



過庭書譜

余志學之年留必翰墨味鐘張之餘以挹義獻之前規極慮專精  
時逾二紀有非入木之術

玄枒類稿云

書不入木不如不書蓋下筆重也

古人有書白木入七者

王勣之表云臣嘗書南郊祭版其墨之微白入木七者

入木道傳流

入木道

一私私乃入木者若祭瑞異朝後漢の蔡邕よりして  
弘法大師の入唐の時蔡邕十七世の道統韓方明と申すの  
世傳を得て帰朝のころ嵯峨天皇と淳和天皇と  
の御心を奉りて了るのちをの朝良たらむは  
佛の御心を奉りて了るのちをの朝良たらむは  
佛の御心を奉りて了るのちをの朝良たらむは



論命を嘗て御旗乃清書は信より外信附能去の御用度  
作せしめし殊私伐少むり自

仙洞様此入本道小筆道存るまは佳名を傳しおろし加藤  
家乃有目つれ事一藤原なる此は再自無の好りて元就

一異朝して六幕菴う師資おろし傳宋の幕裏の時より新絶  
付蘇東坡菴山谷元亮章歐陽脩趙子昂皆能るる一流

の名をいそしめくたは幕菴の血脈なるをたはまといし異朝  
より信り同極書法傳流るる國におろしや

一世道統の内何きも世小名を推し一聖二聖三聖乃外  
おろしりり一統く我れ殊小異朝おろし中國の人及

かくまより一統美は信り弘法大師ハ戲鴻堂小のぞれ  
并明親王玉烟堂におろし浄堂開白道もろ岩倉字昭平親

左大臣俊房る三河入道宗昭此四傳る楊氏誥苑書中  
今要おろしあしりりこの流藤原葛野磨佐理は清

唐宋の國史より入るる凡本朝の能るる古よりこの流は  
おろしりり

庚子未日

散位從五位上直理也

清原秋共遺訓

一曰清原國賢卿其子唐賢心と孫藤原相議而謂秋共曰文書  
者幽之と技藝也而此傳乃弘法大師之三統而中朝書流

之宗源也雖然不幸隱淪乎田野有年于此也今幸書  
道書此並存而在子之平也子當計其其品授之

以不失其傳是則國也忠勤也秋共若くは常言を  
言白不跨直誠而坐知富山と華法生于今世而親

聞古人の口訣者曰國有師資相承る傳也嘗察る隱顯  
皆是縁之人吾忍後世失此傳故乎素雖推る未得ん人

非敢怠焉天概謂武人夫有弓馬戎役之當勤而不怠委  
之身也市人夫有名聞利用銜世害道也其所當貽此

傳者以師と寺社也然而親氏者有之志常徳却  
有所不重於書也今雖云卿尚有詩歌發其有職者

之急務而不能專用カ於此也其於社也亦有教也

也伊勢春日遠境而不便於學者也福河石清水者  
要地而有火戰之患祇園北野夫如志花而冰如雪者  
之勢也所論可使繼生無窮之統先王唯賀氏縣乎  
其地元社稷才一之神境而且近于  
帝都最の書學之便所未聞古來逢回祿戰場之變夏  
是天地相應乃古不易之志也自今以後使千縣之  
有之益而大要之身以致不失此傳矣吾先知乎汝  
哉終傳之成定也而又曰人之生死不可知唯授  
一人於道有所不安唯授地於人於用或有  
所缺矣以傳之秀賢師也而後成定隨師命普  
撰而得雅宣端有敷直以傳之

教長傳書之中

要文見安様立箇條

一重ナル字並フ字ノ事

教長傳書ニ重ナル文字ハ高カレテ並フ事ハ横ニ廣  
カル中ニ假令ハ董競ニ類スル如此カテハ文字ハ一字ヲ  
取放テ見テ各々ウラクシノ見ルト云々

一行字ノ中ニ真相加リ

日書ニ云道風ハ九極カシ愛敬ト云假令陽春布

德澤ハ云々

一文字ノ不具ナル事

日篇小クシテ作リ大ニ篇大ニシテ作リ小キリニ三跡  
不具ナル文字全キキ

假令 佳妙 此云



月 長五寸或三寸大筆ハ如寸ト云々何事心ニコキモラ  
ムテ結ラズ身ニ上毛ハ和ナルヨキシ真ノ物ニ夏毛ヲ以テ  
心ニシテ外ノ毛ヲ以テ上ニカケヘシニモ三モカリル

一 大筆取

月 極テ和取テ任筆トテ可書

一 取筆有上中下

月 筆ヲ取ルニ取筆ノ軸中一行為軸指テ依毛テ取  
或テ寸モ直尺ハカキテ取テリ或筆サキヨリ一寸ヲキテ  
取テテモ極メ物ヲ書ニ腕頭ニテ可也但草ハ指  
テ也

一 墨摺

月 墨ヲスリ筆ヲソメ置テ料紙ヲ取テ兩方ノ  
端ヲソロ見テ長カラシテ端トスヘシ

一 仰書

月 筆取方ノ袖ヲ服下ヘテ入カテ可也服スキス

カ毎ノ手振ヘルアルナリ

一 行草ノ物

月 大ヘテ寸モお構テるシツテ静ノ一ノも大都見書ハ  
ふツルナリ

一 筆ヲ流

月 墨ヲ流シ候ニシテ可也新筆ニ墨ヲ付ニ口付アリ  
墨ヲ能付テホシク可持シ新筆ニテ出ニハ口付ケ  
口付ケテアシカシ墨ヲ枕ニカキテ九ノ度有ニ度子  
ツムルト云はたへるヨ墨ヲダグクトヌリテ可書

一 筆ヲ密ニクハセヌ秘

月 相傳ニ云ツミタル綿ニテ装束ノ上毛ヲツクク巻  
毛崎ニシヨリトメテアハ虫不喰ナリ

一 筆ノ似テラスクカラサル

月 カサラスルノ私ノ人ノモトク筆ヲモハ墨ヲハ  
不付但水筆ニハ付ル水筆ハ地舁ニ墨ヲ入テ

結タル筆下ナルカ故ナリ 水筆ハ小筆ノ異名

一 硯ニ筆ヲ入ル

日ニ爰可入為真草行ニニ爰可入何シモ宜クナイ  
テ可見名者

一 手習机ノイ

日高サシテノ板ニテモ又ニテ斗アララ下ニホシテ  
先習モテ後ニ高キ机ニテ習ヒ前ノ足ヲ少シ短メ  
我前ノウツラノ様ニ可也 手習机ハ高サ等

一 生字死字ノイ

日一テ相付ル草ノ生字トハ何ノ点ニテモアリ筆奇  
守テ点ヲ可也又并之死字又生字ト法大ニ  
云又云生字ハ三魂具足スル一点ヲ引内ニ有ク  
師傳ルル又自ル生字トハ弘法ノ名点ナリ諸字ノ内  
ツバイラ合メ尽ク一篇モ作モ相順メ思クサニ筆ヲヤル

へし是生字のナリ

一 六ノ難

真ハ此行ハ短草ハ曲此ニ難トセリト云

一 カシケタル文字ノイ

日一真ノ草行何モ篇作ノ点ヲヤルハ中慶モ草ヲ  
名モヤルニシキ如クモ草ヲヤル或ハ篇ハ作ニサレテ作ハ  
篇ニサレテ平ニ升スチカウタル文字ヲサテリ或ハ文字  
ノカシケタル云々篇ヲ可引延字ヲ作ノ文字ノサレテヒカレ又  
ラハ作ノ字中ニカシケテ有ト云作モ又サレテ諸字ハ可也

一 大字ノ中小字書文ノイ

日雜亂書ト云見愛相アル但大ナル字中ニ殊外ホキ  
字アル別織儀ト云地解ヲハヨキホトニ心得テ可也又  
生字ノイ少キ字ノイ点画アリト思サレテ引折キ也

一 手抄ヲ寫習ニシメスルメト云

日子ニシメトホ抄紙ニ書ルヲシハ墨筆ノ打立ノ文字の  
墨筆ニシメ草下ノ毛サキニ糸筋ノ様ニテ跡紙ニ書テ  
見分チアル字ヲ子ニシメト云ニ思サレテ薄ク成毛筋モ





カ如故ニル又ハ條及社奉メ向云自ラ取筆墨古跡  
奥源弥難及先哲際又欲持ク更不至筆道頓  
我學古跡示其意 老人若去去之病思空上  
老人住吉大明神之可秘

一 扉密実執心病ノ

扉内空ナル字ヲコト更内ヲ廣クセララ云密  
内ヲスヘシキ字ヲコトセハクセラ云実ハ草ノ物  
アリ消息ニマアリ消息ヲ極メテホリ筆云詞ノ  
キレアイモ不嫌多クノ文字ヲツケテ書タル云文字  
ニカニカホトツクヘシ熱ハ於消息草物初ラ打立ラ  
アリニ筆太ニ云メララ云消息ヲ三度ニ三重ヲ  
能ク意思得テ可キチリニ重トハ道九ニ行成  
ニ佐理此ニ又ラ中下ニ當テ習テリ凡道風ハ  
俗道ノ文字射ノ家ニ強ノ云テリ 辟言ハ鏡丸武

者心カメ何ニ當テモ更退リシキ如シ是初筆ノ  
當ニ行成ヲ付ニ愛敬アリ 辟言ハ貴人ノ衣裝ヨリテ  
居タル大人カニシキ如ナリ此ニ露ニ中ニ佐理ハキメテヤ  
サキ筆太トハ京上筋ノ云シクイニシキカ如シ是ニ露  
ニ下ニシキ加積ニ消息ヲ可キシ能ク此ニ重ノ意ヲ  
得返シ可秘

一 真ニ重ノ習カ

ニ重トハ内ノ合点ニ外ノ合点ニ内外不ニ合点  
内ノ合点トハ作リ外ノ合点トハ篇ナリ不ニ合点トハ篇  
作一字ナリ内ノ合点ハ筆ヲウツクシク長短ナリ合点ノ  
合テラ不亂シカモアイト筆ヲ作リハハリテ可キ  
ニ外ノ合点ハ篇ヲ能合メナシクナリ云ヘシ内外  
不ニ合点ハ篇作兩方ナシ又一字ニニラ互是習ナリ  
是カニ結ク云カケハ文字四方ニ成シ只真ラハカラ  
高ニ書ケト云 或一説ニ真ハ一文字ニカケト云

一 心字ノ



ナレカ故ニ若年ノ時感ナルハ手跡ヨリ似テリ

一 手習紙  
手紙ト云フハ二式ニ習ヒ但手紙ニ習ヒハ手紙書

トキニ思ヒテ相云 唐紙和紙諸紙ニ云々

一 手書 故實

朝夕天ガケハ文字ノ点ヲ不忘モノ又常ニ筆ヲ不  
放物シ可也

一 手抄ラ大跡ラ似テ形ヲ不似

大跡ト云フ走ルウ散水遺点イホリ連大内  
風ヨリ是ホハ大跡ラ似ルキナリ委篇作ラ強ニ不似

或事ニ習筆勢不學文字ニ一字ヲ習テ且多字ノ  
文字ニツラ能知ハ篇モ文字ナリ作モ文字ナリ此氣  
味ヲ以テ余々ラ可也故ニ字ヲヨク習ハ多字ヲ習  
ナル也ト云

一 三賢筆勢

行成ノ手跡  
筆ニ住ミテ  
云々見テ

佐理ノ筆勢ハ文字ヲ同ニ様ニ書テ長ク一ツナト云  
叔曰秘ニ大キニ長ク是ヲ筆勢ト云道風ハ  
愛敬ノ点ナリ行ノ物ノ中ニ有真行草ノ物ノ中ニ  
或行ノ行ラ云五ノ行成ハ多筆ナリ多筆ト云  
佐理ノ筆勢ハ道風ノ愛敬モ何レモ云々間多筆  
ト云

筆跡抄

入木故實 二十四篇

宰相入道作

先物書

静ナリ所ニテヨラレツメテ書(キ也物為ケル

中章命ニ書コトナカレ率命ニテ書損スナトハ人コトニ  
陳ス大書損ツハ後見アレキコト也能ク此ヲ信ス(キ也  
率命ニテ書損スナトハイウハ未練ノ在リト云人アリ  
是ハ手跡ノ故實ヲ知ラサル人也イカニ能ク心ニ案シ  
テ閑ニ書ト率命ニ書トハノ外ニカハル也就中手跡ハ  
硯墨ニ書料紙四ノ物也叶テヨカレキ亦一率命ノトキハ

アマリ文字ヲツル一一定アル也

一物急ナレハトテ散ル物ヲ書キアルハカラス真行草  
共ニイツラモテテ子バク書クヘキ也未練ノ手書ハ物  
ヲ早ク書クヲ吉ニテ筆ヲ昇クワカ也是ハ遠  
テラシキ極也書タカハ僻出アルカ故ニイツレモ兼  
おニ去ク物ナリ且筆ヲスツル所ハ筆ヲメツル所  
心カクヘキ也

一未練時ハ右ナリ物ヲ書テ極細スルカラスヨリク

練習メ手ノシテ書キ出メ後ニ手有ラモカキ又  
人ニ見スヘキ也人能クナリト少人ニシテ後ハ言  
キテアル思ユルハシメワロト見沙汰スルハハ  
能クナリ時モ人エシサレク也手書ハ心際ヲ見ル  
云ハ世有ニ能言ハスリナリ非手書ハおキカ  
手書ハ心ヲツキツルライカモ定ト信スルハ上  
古ノ能ク人ニ練習メ後ハ若クハ能ク本古  
ラモステラレ也但手跡ハ極細ラモナラヒ後儀  
カラス

一觀字色紙形申文諷誦額文穀山四番帳戒牒品

一經等書(キ也次第アラク)夜鶴迹訓ト書見たり

是真先達ノラシラカレタル尤モ信スヘキナリ

一真物ハ第一ノ大支也唐人ハ真物ヲ習スト見ヘタリ

我朝ニモ此カヘキ也但近代ハ先ツ行ヲ習フ也真物達  
スルハハシナル也又文字ハ不具ナリトイハレ能書様  
書ノ様アリ又シテサワクトメユカス文字ノ座席モウカス書  
先ハハシナリ宋朝ノ歐陽ノ真物ハカリコトアル也是ハ  
スコシ愛ラシナリツヨク愛敬アルヘキ也スヘテ上古ノ能ク  
皆極是スルヘキ也カキハ法性ノ極ハ上古ノ能ク道風  
法理行成此三人ノ能クシテ三人ハ三徳ニ具アル  
ニカニ道風ハウヨク書テ少ケスシキ所アリヨキハ徳也ケス  
失也行成ハウチテ愛敬アリテ手ノ少シ念ナキ也愛敬

ハ法心念チキハ失也佐理ハヤサシクヨルハヤサシキハ法ヨキハ  
失也故ニ太平御覽ニ肉ヲ多ク骨カキハ里守ノ徳也  
カ多ク筋豊ナルハ一由也筋ナキハ痛ト云

一 手習ニ先筆ツカイノ意趣ヲ心ウキ也手在リ趣  
込メテ只習トキハ習ル文字ノ沖ヲホス也陸終習并  
又字ハカレサル也大旨ヲタミ心込ツルハ自他ニ似ル手  
本ノ趣ヲ心ウケテハ未練初心ノトキシリカキテ下也  
先達ニ往ク習フコトイッテノ手跡ヲ習フニモ心得ナキ也  
手跡ヲ人ノ心ノ程ハ被知ル也サレハお梅異振にお  
シカシカラス是存ニ存又云文用筆ハ在心正則心  
正

一 手ヲ習ニ本ニモタリ又我ニ往書ナリト思テ存ス  
テ我ニカセテ出ハ自他ニ手ノ損スルイカモ別  
ノ先達モ人ハ五十ニ成リテ手ハ定ルト云リ是解  
ハ現ニ有リ也筆モシタテリ切入テ後ハトモモ書又  
庄クルシカラスセハニツケテモ面白ク見ル也

一 手ヲ出ニハ手存ラズ見ルヘキ我習ハスニテナ  
トモキラフハカラスイッテノ手跡モ皆面白キ也古ノ手跡ヲ  
習ニアルトコロハアリアルトコロハスツク知シ又イカモ我  
トカレサル文字ハ存ラズテカレ也譬言ト我習風情ナラズ  
トモ手書ノ書名おハカシクノツク

一 手ヲ習ニ貧乏思フ又我モ出テ人ニおラカセシ人  
徒ノ中ニおラ出ハ第一吉ク也身ノ多人ノタメニ善悪  
ニツケテ物ヲ往ク書ハ大切ク異國ノ例ヲ以テ我  
朝ニモ額色紙形ホシカリニ必ズ録ヲ省スルナリ  
余ノモ是ノ頃スルハ夜鶴庭判ニ見ルナリ手書  
又ヤセシ人モカクノコトキ極意ヲ知

一 願文ホノ草案ヲ清書シテ後ハドリラクキ也清書スル  
故實ニ名審ナリアリ且草案ニ任セテ是ハ清  
クノアヤマリハ草案ノヒト也  
一 物ヲ人ノアツテ書セニ料紙ノ奥ニ録シタラシハヒキナ

チテトムヘシ料紙ヲアヒテカキミテサラシハ手書ノ恥  
ナルヘシ手本ニハフルキ詞フルキ詩ナドク書キ也但別  
ノ意趣ナラハアマラシキ詩アマラシキ詩ヲモカクキ  
一 屋風ノノ習ナトハ子細アル也道風ノ筆ニテアヤラシ  
屋風ハハリテ大ラカナルニ縛ラシメリケルニ頭ラサシツトテ亦  
行ニ草ニ散ルニカシハシリキ大辨気神ニルヘキ物ナリ  
一 モノシカラシ時物ヲ書コトナカシ書物跡荒ナル物ナラハ  
手ヲワロクメ又ソレラハ一宜也古筆トヨキ料紙ニテ心ノ  
イサニシカラシ耐ちキキ水手書ハ此次キシラスマキ手  
書ハイカミタヤスクキソトノミシリテヒラセメニラシ  
カニスル也サレハ手跡ヲ執セン人ハウラムルト云ハお稱  
タ、我心ニカセテモノシカラシ時ハ出シキ也心ヲモシ  
氣ノイサニシカラシ時出キ也人ノ心ニカワテ我恥ラフル  
イテハ我指ナリカリノコトキイハイダトモヤスナリナレ  
故實ラ云フニ是解ノイシコソ申侍レ壁書ニ水手書ナラシ

人モ是等ヲハ心ウヘキ也然ルニ信管弦チントラスルニモア  
ナレバテワメスシテ心ウヘキ也寧ルニ思惟ニモナリ書  
僻也諸道ニタカクノ如クナルお稱ニお急ニテヤ  
一 物語草ノ書リハ能クノ具取セサル也夜鶴庭前抄ニ  
ルる委細見ヘメリ  
一 消息チントラ手本ニハツクワウカラス假名消息ナト  
ステカクカラス  
一 我ヲム様ナラ子ハトテ左右ナリ人ノ手跡ヲソレルアルハ  
ラス筆勢ハ無量ノスカタアリ人ノ心モ又万差也筆ツカヒ筆  
シテノ善悪シワキ一ウキ也イカニモ能書ハ皆ソノシナアリ  
筆勢アルモノ  
一 筆習ニ先字ノカタチヲ習ボテ後モノシカラシ時ヨキ書  
筆ヨキ料紙ノ物ヲ出キカナラス其習タリツル文字ナラ子  
トモ筆ナレニタメニ出クヘキ也又本ヲ見スメソラニ又字ヲ出  
後ニ本ニ合テ見ルヘキ也口平ヲ以テ習ル許ニテソラニ出

ナラシハイヌツラ一也

一 手習シタルニ似サル文字ヲ相稱似色ニトスル一ナカレ其字  
計シ似色ト云フワクシヌハ手習ニ良座セシ九ナリ一兩度モ  
習テ似色ハ習ソノ云ラハサレキテ別ノ所ヲ習キテ之ヲ  
ツキテ遠又習キマカクノコトク度ニ重シハ似コト自然ニ  
好ナキ也

一 必手本ヲサシテ、習サシ氏常ニ心ヲカケテ凡サツハ自  
他ニ得分ナルコト又我者タルおラモ常ニトリキテ後ニ  
見テ是ハ吉シカレハワロト刻シハカラフキナリ

一 手本ヲウツサシ先キ手跡ヲ通習テ後ニ是ヲ是ニ  
寫シテ又ウツサシフツウツシタルホソク寫ス一モアリ  
是ヲ能ク心ヲ手本ヲ寫ヘキ也

一 近來私塾院ノ御筆ヲ學ビトモカラ多クハテキ  
損ズル其故ハ地舛筆ニ自ラエテアソハルニ筆業  
勢カラ書師筆トモ相交ル其ニ我筆勢ノホトモシラ

ス先筆ヲクルイテアソハシタルニナク同一定手損ズルニ地  
舛ハお出シタルステ筆ヲサリテ後ハ少ク筆勢ヲ計  
リ手ヲ書キキイツシ様ヲモ知人先ナラクタシクお  
キニサテコノ御筆ハ一旦お六似様ナレハ姐様ハカヒ  
カタキ也お六ニ多ク入コレラスニ、余ノ筆跡ヲ學ビ有  
徒ク心得テお六ハカテお六也イツシノ筆跡トモ  
お六ヲラニハ損ズキ其年ニ授テ此出筆大ニ傳  
ス

一 手書ハ朝夕常ニおラ書ヘキ也ニカラサレハ手跡損ズ  
此条々傳シ心得可有執有古先也随分抄書

筆跡抄

右難波殿祖教長辨ノ作也出家後住高野山  
神橋ノ好む可為重寶也也



入本道書様云

一 外題書り

経巻及氏何玉其中ノ書格ニ随テ外題可去紙  
老直真云云物ナラハ外題モ真ニ書ニ行ナラハ行尊  
ナラハ草ニ可ナリ相應ノ書格トナリ

一 高所ノ物ヲ書リ

上大下小云々文字様良シ細カト云云イカテハ高所ノ  
文字ハ目遠カ少見低所眼見云云之字大ニ見云  
ナリ額割札番帳也

一 色紙物云様

先色紙ノ勢亦切テ文字賦リテ見テ其後見  
ハシキ格ニ可云又云ノ上ニ墨不付モノ也シテハ墨ヲ  
濃度多ク見テ別ノ硯ニ取テ筆ニ墨ヲ添ルトモ油ヲ  
少シ筆ノ先ニ付テサテ筆ヲ点スハ付ナリ又繪具ニテ

彩色云々上ニ墨不付モノ右ニ白云又丈ニモ墨不付  
トキハ耳ノ垢ヲ墨ニスリテ付テ云々又古キ打紙ナリ  
云ナリ

一 扇ニ手云々

扇ノ手智ハ能云ノ大者ナリ且故ハ口見云々  
物ヲ書タルカ不見格ニ云々繪ヲトシモ口ノ書格ニ其繪ニ  
相應ノ詩奇ヲ可云其ノ應ニテ云々古書也扇ヲ  
ヒケテ折目ノクカキ折ニカク又古字ナト書格ニ先右  
字ヲ存墨上カキテソノ裏ヲ返シテナラ云々

一 新筆ヲオスルキ

先墨ノ汚キヲ付テ能ク巾ヲ乾ホホ  
ニテ其後墨ヲ濃クノ度テ能ク筆ヲ洗細字ヲ奇ナラハ四  
カテモ書テ能ク巾ヲ置テ其後漸ク大字ヲ云々筆  
ハ切ルニテツカヒヨキ又筆フクミニテ仕書ハ能く油ヲ  
リ墨ヲスリ筆ヲロニテ濡筆ノ巾ニテ墨ヲ合セ紙ヲ  
以テソノ墨ヲ筆ノ乾ホト毛並ヲヨク巾ハキ也物ヲ書  
字ヲモ如此ナリ

一手跡タシナシ

終日真細字書タルキハ平本ヲ名動湯ニテ時ヲ洗書札  
筆ヲ氏一柄ニ憚ルホトノ大字ヲ書テ筆ヲ寛クシ又終日  
大字ヲ書タル日ハ四五日ニ諾名録ナル文字カレモノナリ  
此時ハカナヲ歌ナラハ廿首斗キチナリ又毎用取ナリ  
消息毎自一系ニ系ハ必ズ可也又人ニメノレ或ハ主ノ仰  
書ナト氣極テ毎先ト出タル手習ノ次ハナラヌモ  
及晩日孫日毎ハト出タル氣ヲツクシテ二三モ或ハ  
巴書ヲ習テ寝テ是ノ跡ヲシテモ中ノ音也

一終日馬ニ乗方又相續シトルモ或ハ把孺或ハ把生或ハ  
刀擲扇切ナトシテ力出時手擇テ物カシヌトキナリ  
ラハ湯其ナラハ必ズ水ヲ手ト面トヲ洗ヒ酒能ク吞テ  
大字ヨリ中字ソノノ細字出キ也

一食テ則書ハカラス年水取ラシテ心ヲ清メ常用所ニ真ナリ

行ハヨリ草ヨリ假名ヲ書ク也

一入風温湯則石ヲ物書タルキス盲ト成モノニ或ハ依公  
用或ハ火急用取テトアラハ水ニテ面ヲ一水薬ナトシ  
飲テ息ヲキ心ヲキヨメテ去ナリ

一抄物書トキカナラス初一二丁添嗜書有テ手ニ嗜ムハ  
肉過テアシキモノ之先試シテ投テ出タルトモ墨ノ色  
筆ノ心ヲ能ク清テ筆源ニテ投テ出タル後如クモ  
執テ去モ也

一抄物書トキ札向脱身ヲ録ニ真向ニ成テ書タル  
後ニ見古たノ膝ヲ札ノ下入テ才ヲ傍テ出タル書  
徒ハアレトモ後見カナラス文字斜トモ出テカナラスア  
一抄物書既墨上カシ存子ハ出能ハアレトモ後見ルトキ  
面アレトモ見也書物ハ必濃墨出能

一假字交ノ物也トキハ文字ハナクハ字大又字ノ軒  
小ト云ヘシ假名ハイカモ美蘇ニ云ヘシ一天交假名斗云  
トキハ假名主時ノ骨目ヲアラモテ書モノノ是又骨面  
ノ能ニシテ和漢ニ書文ニ薄中ニ底伏タルコト  
也了先達ノ能ニ戒ラカレタトモ也

一抄物書時毎活字ノ  
ケヤノ控ヲ置テトキハ活字アルトハ常ノト也所訖  
ヨリノ物ヲ十日ニおほ一旬ノ能ヨシ見テ各字ニ  
暗ニ覺ヘテ存ラ見ヌ又一旬ノ能見大キノ物  
云秘ノトキナラ見テトキハ抄テ各字ニ見テ  
ル有ニシトハ公ウツリテカナラ活字有ニ也  
一抄物ノ字トキ我心ナカラ能書本名ト思テ別ニ置テ  
一丁ノ能書本名トキソノ能トキモテ損テ字ノ小ナ  
量知シヨト思ヨリ又字大ナト思ハテト心ナラ

小ト云ヘシ能カニナルハ心退居アル方又集本ノモトキ  
又字大ニ成モリノ是ハ所限修也

一真抄物也トキナラハ世字ホト抄ナラハ永日ト云フ  
ハ下ニキテトキハ必ス修テ損テアリテ又字ノ小ナ  
キテ可惡物トキ又字多ク行ノ分別可准是向抄物  
自向自各ニ可知好惡也

一樽櫃長持ナラ書付ス  
墨ニ濃薄ヲ進上ナラハ此方ノ名ヲ先出テ後進上  
ラ云ヘシ假初ニモ真字ハ書悪キモノナラハ初葉ニ不  
出来ナル故ニ云ル也

一生板ニ物書保  
葛粉ヲ塗クト者火ヲ板ニウスルト引テ火ニテ焙  
可也又備ラ細布ニツクミテ火ヲ當テ板ノ上ニ中  
テ能醒テ可也ナリ其俣云ルハ墨空カトス散テカシ

一 天氣霽霽久トキ物ヲ書テ墨色ヲ知リ或鳥子ナト  
水ヲ打紙ヲ打テ打スル也或ハ沙紙或ハヤウカニト  
墨ヲ紙比ニ磨テ物ヲ書テ日ニ干シテ見ニ毛走筆  
通リ直ニアラハ墨色能トコトクハ毛細ニ毛走筆  
通リタニリアリテハメナリハ墨色アルトモラヘ  
墨色アルキトキハ必スハケメナキ也

一夜物ヲ書様

昼ノ内ニ墨ヲ磨テ紙ヲ墨色能トモラヘ其  
硯ニ水一ヤクハテハラニテ能ク磨合テオキテ夜ニ入テ  
ハシ夜スリタル必ウスキモノ是モ墨色ハメナリハ字細  
小字成ト思オトニ書メリトモ是也ハ大成モノ也他  
准

一 又字ヲ白クシ地ニ墨色セヨ

此紙ノ油ヲ新筆ニ添テ白紙ニ書テ日ニ干シテニ  
三度モ其上ヲトメテ墨色ニ磨ク水ニ入攪テ其水

白鬼ニ云々紙ヲ浸テ取テ干シ又字白クシ地ニ黒ク成

一 扇地ニヨリ物書様

扇白地ナラハ字細ニ可也 此紙ナラハ字太ニ可也  
黄紙ナラハ少シ字細ニ可也 楮紙ナラハ右ノ如  
浅黄ナラハ墨色朱色ニ可也 赤紙ナラハ墨色ニ  
白紙ニ交テ可也 金地銀地ナラハ母垢ヲ墨色ニ  
交テ少シ息ヲ吹ケテ杉葉ナトニテ能クソノト  
中テ少シ 唐墨色ナラハ赤紙ヲ交テ少シ  
大方此ノ扇ニ少シカラス也

一 縮ニ物書様

紙書ナリヲサセテ真毛ニタシ毛ヲ立真副ニ其毛  
ヲ立ホウツキニ毛上毛ニ又其毛ヲ立丸筆ナ  
クハ墨色ニ油ヲカシ交テ能ク磨クサ葉紙ナト又  
冬ナラハ一夜ヲキテ少シ春秋日ナリ其ハ朝ヨリ  
宜ミテヲキテ書ヘシ當テ磨クル墨色ニテ少シカラス

アヒキ物ナリノ口傳

一筆下出ノ不喰ハ様ノ

ハ友ノ様汁ヲ付テホシテニニ度ニ出スルナリ又ノ中ラハ  
ホソキヨリ鱧ノ油ヲ付テ筆形ヲスキテ引通ナリ是モ  
ニニ度ニ出スル

一里室不村様ノ

夏ノ涼シキ所ニ掛テ置キ又真ノ香ノ中ニ出スル  
濕タル所ニ出スル

一初心ノ眠ハ手ヲラカシ大キテ手ヲ程ニ可也

手ヲヨリ丈ニ取テモアシ況小ノ習テモシ能  
似セント思ハ手ヲトリカテモ奇ナリ

一机ヲ習リ努メ有ラス文官ナトノ物上ニモテ

機ヲ習ハシ机ヲ習ハ手ニ機テ出トキ不自在  
モノ手ニ機テ出ハ手跡ツヨリ筆ノ動思ナト見  
テ後動判ニ習ハシ判判モ里深ニシテ朱ニ

但立年ヲ免テ其内ニテハ物書ニ成ナリ徳ハ不  
斜也是モ手ニ持テ可也

一夜學ハ名譽ノ也ソレモ真筆行又ハ大字ノト也假

名色紙ナトハアシ

一少キ物假名出玄ノ解ノ物ハ書習ハシ

一徒書ニ成ヌカテ手習ハ若別ノ趣成ハ其ハイカニ徒

氏師筆ニ是ラ調テ快氣ニ以機嫌手ヲ出トク  
行テ則テ習ハシ難ク效テ難年ノ経日更ニテ難

一假名ハ杉原鳥ノイカニ和ナル御ニ徒里室筆ニ

效テ也色紙ノ法ニテ習ハシ

一大字數モテサノミ習ハカラス尤有ハ手習サ荒

云ノ法ヲ出スモノナリ時々習ハシ

一大字ハ肩打立引寄ノ所ヲ可也

一真ハ角心ヲ入テ習ハシ

一行ハサノミ角ナリ筆ヲ勤テ習フヤトス  
 一草ハ筆ヲ緩クト捺テ出云ナル筆ヲトス  
 一筆切又テ筆勢ヲ見セントナリト云ハ下ノ習ナリ  
 一幽玄ノ染ノミ好テ習ハハ筆跡ケタカクメ尋常ナリ  
 一心ヲ知テ筆ヲ馳ラトス也  
 一筆跡ノ骨ト云ハ何ノ筆法仕トモ面白ク所ヲ是  
 一石使ノトキナリト云ハ下ハスレトモ尋常ノイカニモ心カラ  
 一機嫌ノトキノ效ハ中ノ筆也  
 一墨紙ノ上ノ習ハ難年経可難筆能紙筆トテケコ  
 一尺ハ難年不經年ノ能ト云也  
 一日本ノ跡ハ佐理行成道風也此ニ跡仕ハ大伴  
 ヲリ付テ後ノ佐理師ハ表筆ト立テ中筆ニ仕ラト  
 トセリ行成ハ表筆ト立テ裏筆ト仕ラトセリ道  
 風ハ表筆ノ裏ニ仕ラトスル也

一假名ハ筆トシカカカケテ中ノコトノ弱クセ心ヲ  
 ナトス男ハ如ク女ノ如クトス是ニ幽玄ノ容有テヨシ女ハ男  
 ノ如クトシカハ強ク目ノ下ニヨシ假名ヨクツクカ  
 トス物ハ筆跡幽玄ナル習人ノ如ク筆ヲ能クトス  
 未ハ行成ノ流ノ行成ノ子伏見院ヲヨリ書道  
 院入道親王尊貞親王ニ名ヲ付ケル也

一短冊書様ノ  
 イカニモヨクトシテ所シカラトス短冊ノ廣サ一  
 ハ分ナリ是ハ尺破ノ間屋ヲモハル此間屋ハ短冊サ  
 一寸ハ分アケテテアリ月影ヲ漏サシメテナリ  
 一扇ノ書様ノ  
 二羽ノ書様ノ陰ヲアリニモ鳥獸ノ形ヲ云  
 切草ホラシテ損シナトス  
 一團ノ書様ノ上ト書テ一筆右カハカラズ假名トテ月輪  
 ヲリ上ニカキ下ルハ毎也

一 假名ハヨクト押ノキルコトヲモテ存トス

一 消息ハ見キ程ニ等建テ其ノ里空存トス

一 一切ノ物ノ名ハ真ニハ真ニモ中ノ様ニホリ

一 絹ノ物ヲモテ其ノ名ハ真ニモ付テヤスルトモモリ

一 里空存トキ限空存ニテ粉ヲ少シ入テ里空存合テモハ

能カシルモノト秘スル

一 生木ノ物モシシテ其ノ書又モノト切ロシモ其ノ鋸目ノ

依テシテモシシテ能クハルモノ也

一 大事ノ物ヲモテ卷余多アラハ奥ヨリ可也何トシテモ

初ニモモリハ後アキキテモ所ナリ秘スル人見

ル所ニテ大事ノ物好ムカラス紛テ落字ノ損字又

アキキモノ

一 秋又春ハ其ノ里空存ラリテ一夜モテ可也氷時分ハ毎用

其ノ朝スルテ昼時分ハ仕可ク久ハ里空枯テアキ

一 手跡ノ毒トハアキキ等里空存ハ能ク成テ其ノ下

品ナリ能ク手跡ハヨキ里空紙ニテ横條能ク天氣ノ

風モ吹ケル日ナト可用也其ノ要

一 手跡ノ精ハ思ハカラス唯モカシラモコトク思テ散ルニ

モカシラモ秘スルナリテラヌトキ物モ更ニ奇

有テ其ノ下ルモノト秘スルハ能ク心也

一 能書者成テハ手跡アキ、唯能ク内陰鳥子ナト精

成紙トモラ用意シ毎日信條條何度モ手ナラモハ

早ク擧ゲヤクノトキ紙ノ表裏ハカラヒテ可也ナリ

一 能書者成テ假初ニ手ナラヒテ習リト品成ニ

又時々其ノ後ニモ格スルモノ

一 且ツノ物ヲモテ可也或物ノ存モ或色紙短冊ナリ

アイハシ常ニ可也唯ハシメテモハ能クトモハ

一 書物ノ内ハ假名カキ大事ナリ短冊ナリ常ニ云

へし俄に初テあるハ紙ナキト其ノ者カ

一 薄紙ノ物アリ餘運至濃ハヨカム者又アリ此ハ為カ  
紙者也極薄紙ナリト云アリ濃トアリ紙トナリ  
可也ナリ内陰鳥子ハ運至濃トナリ也

一 強筆ト和筆ト習

強筆ト和筆ト習好ノ習シキ其ノ函云ノ容ナリ和  
筆トハ尋常ナリニシテ函云ノ後ニテヨリ字ノ入ル好所

一 假名ノ筆ト小國毛ノイカニ紙巻毛ニテ筆形少  
紙ヲ多クシカスニテ結ヲ紙仕付テ可用其毛可  
悪モノニ

一 内陰鳥子極薄紙ナリ和ナル筆ヲ用ユト筆中物  
ナトニセタ内陰鳥子ハ和筆トヨシ極薄紙ナリカ  
紙毛ヲ用也

一 紙物ヲ書ニ初ラハ少シ大ナル様ニ云ハおもひテヨシ初ラ

紙ノ真ナル様ニ云テ治身ニ行筆ニ云ラホトナリ初  
筆ニ云奥ノ真ノ公ヨ也

一 札ノ長サハ扇モナリ紙云ノ札ハカト高シ存トス  
物ノ存也トキハ札ニ置テ可也平ニ掛テ云カラス掛  
字ナトモ唯戒急ナトハ札ニテ可也只無字ノ文モ  
スリナキハ多ク上ニテ云テ紙巻ノ札ノ上ニテ云ル物弱ナ  
リ多ニ持テ可也ナリ色紙ハ平ニ掛テ不可也  
短冊ハ平ニ持テ云ラホトス

一 書札ノ存者筆法唯散々ニ任筆ト云ルカ見吉トナ  
但厚アリ折詰テ云ルハ平ニ掛テ懸ニ昔ヨリ  
書年消息ハ心ノ任筆仕テ紙讀ヤウニ書  
タリ書札ハ平ニ掛テ云ラホトナリ紙ハ

一 硯水真中石氷様  
古酒ヲ硯水ニスル終日名少又生々々々者少ナリ汁



硯水ニスルハ石氷之口より取ラヘキテ硯水に浸ス  
 一 老筆ノワキハ能筆事至極稀成コト也  
 一 若筆下ノ在筆ハ每書用ノ故アリ是ヲ常ニ合用  
 ナルト云外多言能書ハ何モ土口見テ姿態見  
 一三

● 入木道ノ部 古今雜類抄

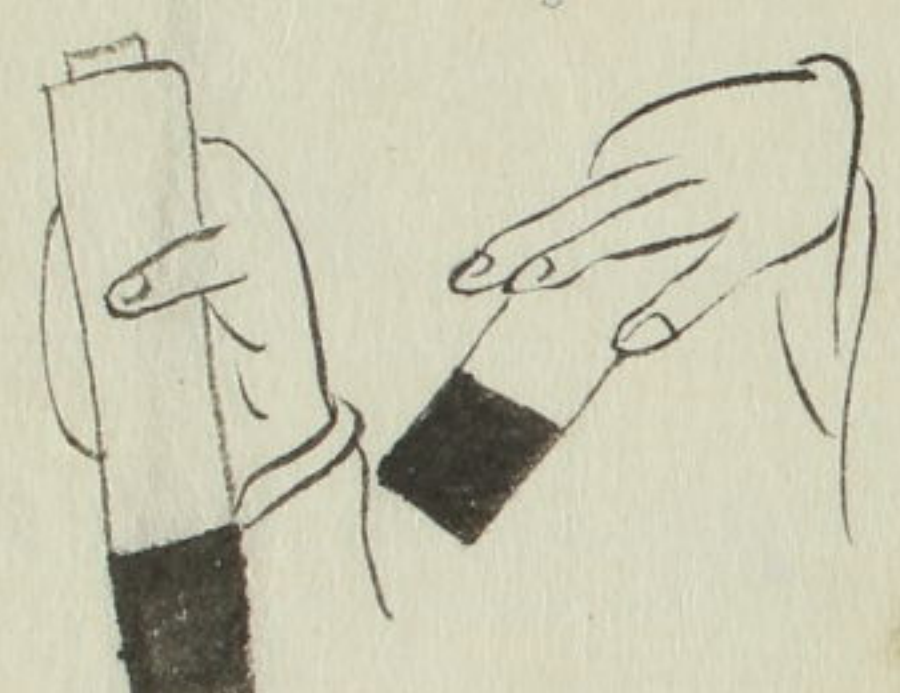
硯

筆ヲトル入木抄亦見ヘキ  
 手抄ノ間入木抄ニテ  
 硯ノ寸度  
 キリヲ入グイツノ初ニミ名明也

右 カハ右 カハ左 カハ右 カハ左 カハ右 カハ左			
カハ右 カハ左 カハ右 カハ左 カハ右 カハ左	カハ右 カハ左 カハ右 カハ左 カハ右 カハ左	カハ右 カハ左 カハ右 カハ左 カハ右 カハ左	カハ右 カハ左 カハ右 カハ左 カハ右 カハ左

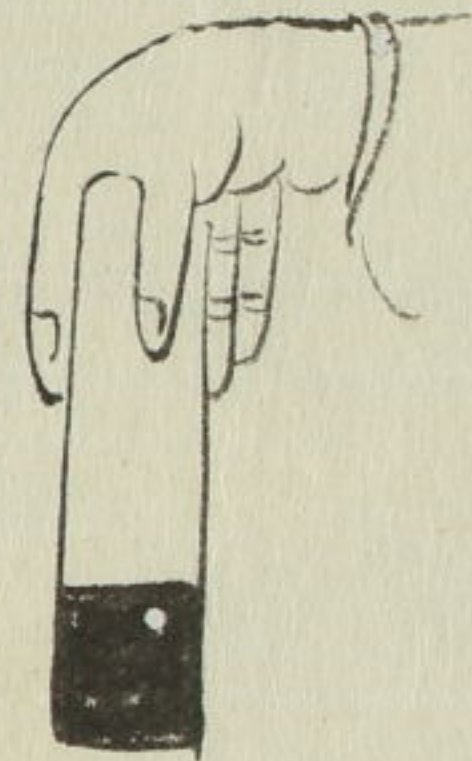
此時ニクワン  
 スニチヤク  
 カハ  
 カハ  
 カハ  
 カハ  
 カハ  
 カハ

筆ヲ入ルニシテ  
 前ヨリ入ヌモノ  
 コシツナリ入ヌリモ  
 三ノ口傳アリ  
 スツコシ三説ナリイカモ  
 文ノ袖ノ元カヌヤウニ  
 タカトラ上ニラキ大指  
 テ衣文ヲサシ小指ヲ衣  
 ノ中へ入也



能書ノ説也  
 可然ナリ  
 遠近ノ執筆  
 法用也

陰目 執筆の時ハスリ紙三百返ナリ



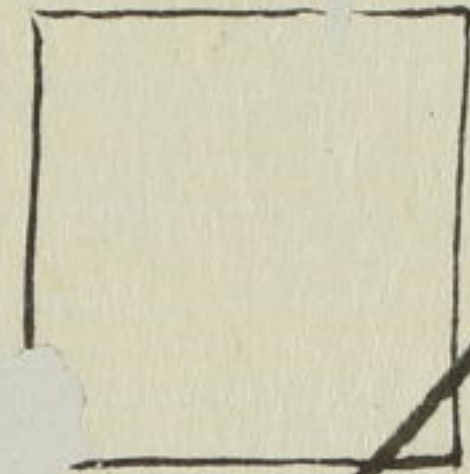
他少くも  
見守山形



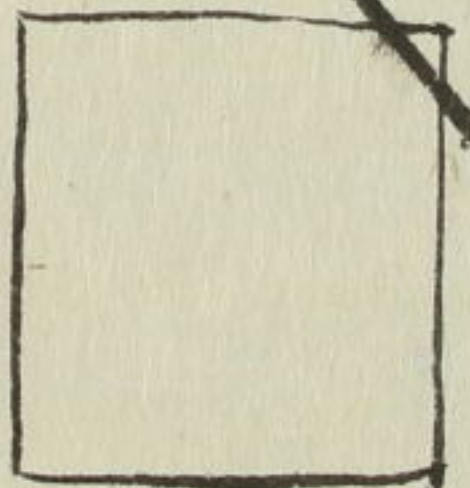
又一説

墨玉シラスリハテハゴノトノ右ノスミニシラクキナリタメシ衣文ニツクテ了ルヘキ者上ノ右ノスミニシラクキナリ

陰目時ハ筆トメイニシラク



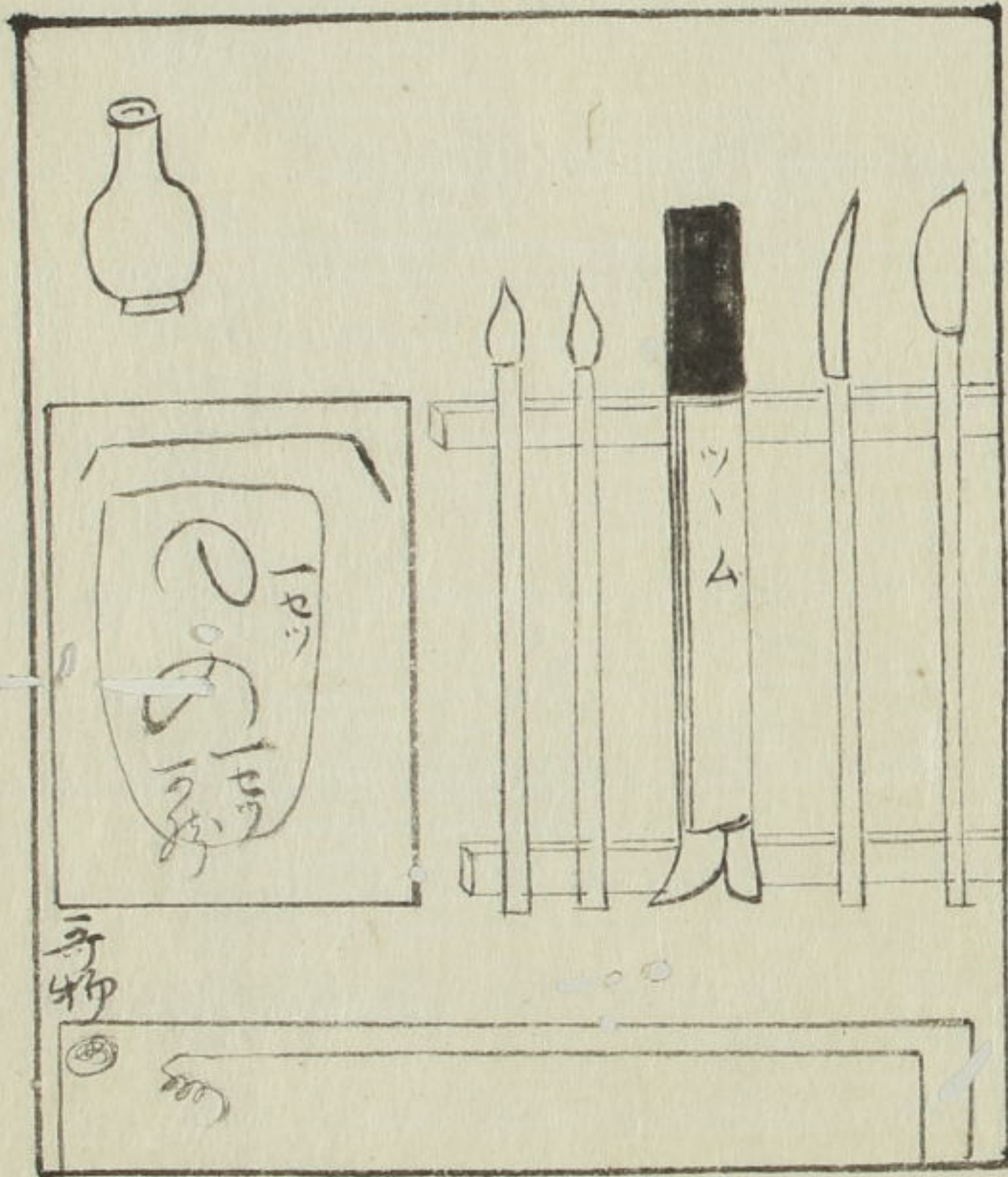
本説カクノコト



故実カクノコト

赤神色紙ハ兔毛唐紙並檀紙等常ニハ唐毛百返ニ冬主檀紙ニ夏毛ツカノ長サ五寸ノ寸ニ本抄計ナリ紙ハ毛只ノ紙ハ唐毛檀紙成リニ夏毛杉葉ニ夏毛綾ニ夏毛布ニ本筆ハ本筆ト様本ニ作ナリ上京ノ夏毛アシキナリ

陰目時 硯 墨 鉢



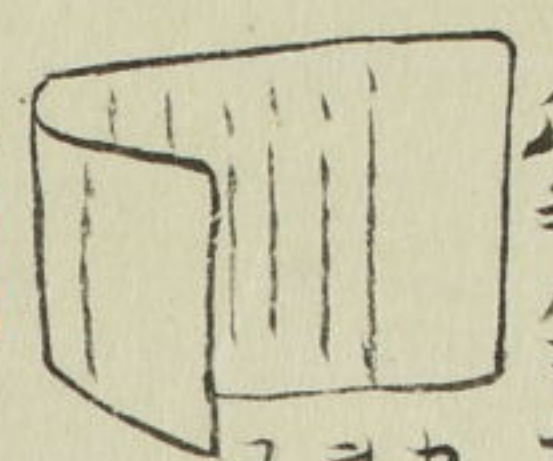
香蓮花院  
大府ノ筆字

筆本二巻ヲカラソメテミテツカウキヲ一巻トシテツカフハツシテラタ

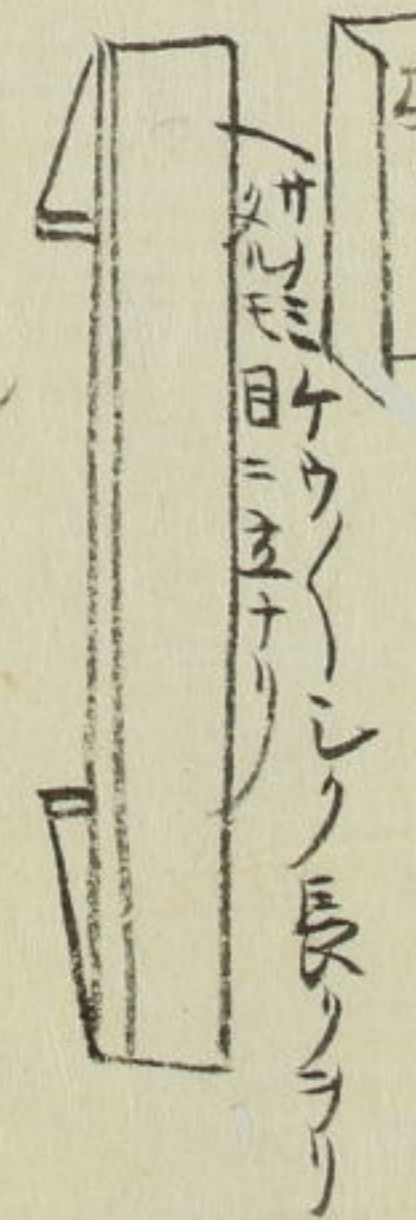
除目ニテ夜ヲ夜同業トテ夜又ハ業トテ書ヘキナリ

冬ノちね

端ヲアテテミヤクハシチノハシテカウノ上ニ筆トラソメス  
下ニテハハクシカラズ福ノカウヲクウニ書ナリノウラハ年カウナト  
ノケテミカウアリノスリナクヤハカラストクハウラハ書ラセ又時ハ



カヤウニフカソ  
ラリアゲテ又  
ユニカニラルヘシ



ケコトクヲリヨリ  
ユニカニラルヘキナリ

上ツクミハカミノウラヲ中ハスヘキ

又ノツクミ紙ヲトシチガクナルヘキ  
上ツクミノ時ハ中ヲフンセス上ツクミナキ時ハフニスルナリ  
ツクリ紙ニハレイセツナシソツクノト云時ハ又モヲリカミモアテツク

ツクリカミノノツクリ前ニカキメラ後ニ書ム上ナキハシヨリ

ノワイ紙ノ書ヤウノ書又

ノワイ紙ノ書ヤウノ書又

訊

和歌

各字

三首

三首

三首

一首ノ時ハツクリト和歌ト各字トヲ  
カクノコトクニシテニ書ヤウニスヘシ  
哥ハハシツクリノトヲリナルヘキナリ  
上ハハカラヒテ書ヘシ  
三合ニ書ナリ各字ヲカクモ同字ナリ

訊

二首

和歌

三首

三首

三首

五首ヨリハツクナリノツキ  
目ニハカキカケ又書ナリ

タニサクノイ

たうかたニカケハ右字ニしたまへしハ右カサシ

ニツテミナ  
兼テソノカ

字一  
カテタツク

傳是アリ

兼テソノカハ上ノ五ノ字下ノ五ノ字  
下ノ字ノ七ノ字ニテソノカヘキ

クソクカラウトノ前ニ前ノ字ヲ出アリ

前

イツレモツケテサキ  
日ニカケハアシキルトヨムニヤワセタシ  
キニヨツテ大ニセ

馳ルニヤウ

八幡太神

天照太神宮

奉此多クリノ所をニヨツテ

ハチノ神ヲモ書ナリ

春日大明神

天照太神ハサメニシ

シノ上ニ物書

トウシニミナノユウ又スミカミノアカラスリ合テモ書ニシ

アキカハラケラコソケテキヌニツミテ上ヲノユウヘシ心算

キメニシ

クワニスノケニテシメシスミヲヨクスリテカク人

ニシキヌノ口ノナリ

ホシカリ

イカニモスミラ子バルホドスリテセ

キリノロー

水ニぬしシメシテカイカニモヨキスミラ子

カベニシ

スミラ子

トチヤウノ

大真ノ行ニセ

字 字 字

サウシ

ヤウニコトノケテトクヨリモヨクニ

トヤウシ付トニイラキテニマイメシヨリ書ん

又字ノサウシトゲギヨリセナリ



カチノサウシケシノ部ワケノ更ロニカウニスキスハ後ノ  
部ワケノ更ロニカウニスキスハ後ノ  
草七字ノ部ワケノトキモラケシキ

アウギニ書

ハシラノ間ノケテセハキレハ上ノ下ル方

ハ子ノ上ニカキカケス 三代集ノ哥ニスクハカラスニ首ヨリ

多ク書ヘカラスウラニ可也西云カスミカキキラス人形ノ面

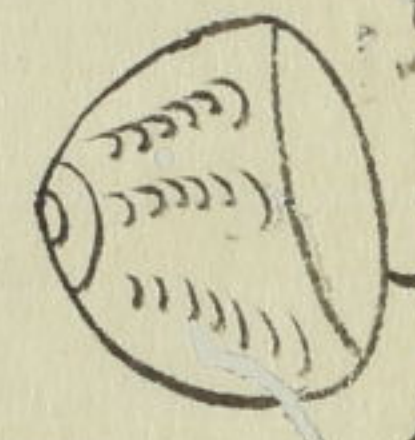
ナトニセカケスソウハツ首可也ナリ

ウチワニ書

日月ニヒヤウニタリノカニス  
ウチハニ書ヌモノニ野をシハセナリ月ノハニカキカケヌヤウニ

貝ノウラノ事

源集ニスキス地ノ上ノ勺夕見ニ下ノ勺ヲセキ



心ノ底抄見

手ノ行エセキニテ内容イ字ヲヨクタシテ也

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

心ノ底抄見

懐帝内ニハトヨク引合ニ細シタレの時ニ書ハ

讃岐をシテ引合ニハスル切也



玉將  
上ハアゲテ  
カクキ



必為世に説く歌けしをて常用為すは、後小詩  
大のさのりたり、歌をもて通用するも、はらば  
後成りて自筆のふ載集に評し、字をてん  
り為世の説く、歌をてん、常用とて

舟なる、  
かゝる、  
たゝ、  
か、  
は、

● 麒麟抄抜云

入木ト名ル事

手習ト云入木ト沙汰ト云入木ト大師於異國  
青龍寺真言此向有ケリ雜司ノ尼教万人僧  
テテ不更儀ト云名テ彼尼何術ヲ以テ箇様ニ投  
入ツト被仰ケル尼答云ク術候吾ニ傳サセヨ尼答云手存  
ラ書テ給候ナヤ安事ト有仰、唐チニ寸、五寸長  
サ一尺ノ木ヲ小刀ト取合テ進之大師取テ削リ給テ  
遊々文ハ僅々云、異中云我心自空、非福無主  
此文云テ削ル文字ニ才五分入テ、残ハ不入、其時尼更ニ程ハ  
手ハ異國ニモ傳書多ク候、大師力毎ニテ、帰出テ或深  
山ニ行テ、亦屈ニ閉籠リ、百日再手習有ケリ、自其百日  
手習始レリ、裁云云百日習ハ、駿、一年習ハ、文  
字ノ姿、出来ス三年習ハ、能書ノ名ヲ得ルト云、爾大師

歸リ玉テ尾ニ手コソ上リ名汝ガ術道ノ教ヨト仰給ハ  
尾安禮ノト申テ如前本ト小刀トテ取出シ大師取テ  
削如前書玉フ尾給テ又削此度五寸本ヲ徹ル尾申  
サリ如此功ヲ積メ本ヲ徹リ飯ヲ授安シト申入本ノ筆  
使ハ蚪蚪ノ如キ書ナリ

蒼頡ノ昔帝ノ臣下也軒轅皇帝姓ハ公孫王ナリ  
雍州ヨリ西二百八十里去テ金倉城有香支墨下ニ  
構殿ニ居メ字ヲ作り好タリ

義之晋代ノ人シ晋國將軍ノ四人ノ子アリ  
獻之我朝仁徳天皇ノ時ニメリ永和七年ニ晋國  
山アリ其東高ト云登彼山松木立石ノ姿ヲ見テ平年  
トス同九年彼山ヨリ出其年早ヨリ以未我朝曆  
應元年到シ九百八十年  
道尾張國上條ニ生玉ヘリ此人ハ右京大中人

中朝考  
江之夜云云  
山屋

天啓ノ古道風  
朝ノ分年上事誰  
人哉申云空海敏行  
時人難云伏師御名  
可養音讀也敏行  
又猶止志由岐止奈  
牟可委云  
又云道風朝手跡相  
論復天啓御時野  
道風与江朝綱常成  
手書相論ニ時西  
議曰給主御判五  
可發勝為云仍申  
諸神判之處主上被  
仰云綱目書方於  
道風事譬如道風  
方朝綱之才云  
又云兼明仇理行成等  
同手書也  
兼明仇理行成ニ等  
同之手書也右皆様女

葛絃ノ子息ナリ嫡子道風次男ハ元風三男ハ伊風如子  
一人アリ何モ手書シ其中云道風為才一其故云英又ニ菅  
大臣ヲ見奉テ道風カ筆ヲ執ハ既叶ヘリトソ佛説云  
空ニ声アリテ天人来テ告云リ爰ニ延喜ノ御門ノ時右  
京大夫ヲ被召カテ手ヲセノ由聞食長ニ筆ヲカセト  
テ團ヲ一本給テ道風カス其文云我遣三聖化ハ彼  
震且上禮義先ノ用大小乗經此團ハ我獻帝ノ敵見  
ノ後打置玉ウ右京大夫我宿所ノ帰ル何成敵見ト  
親問ハ何ト云御愛モナシト云其團ヲ申出シテ玉  
ト云又申出シテ子ニトラス其團ノ裏ニヒク其シニ云我ハ  
晋ノ王義成之カ筆ヲ傳テ此子ヘリ恐ラクハ帝何ソ  
達筆ヲ執ニ手トセテ進上ス或時ニ御門ハ此團ヲ敵  
見アツス御涙ヲ流シ大ニ耻玉フ河内國ヲ給テ既ニ  
殿上ノ文リテ免シ給而ニ日本ノ山河草木ノ姿ハ和ナル故  
其ニ似タルアイタ義成之カ手ニ因テ懸テ道風ノ書給テリ  
雖然義成之カ所定ノ筆法ニ不替ナリ名ヲハ野ニ共野



相非也後人難矣  
殿軍欽敬源右相府  
云行成御世謂者  
於道風欽信者佐理  
并明等止崇年世  
人稱之  
又云拜三作御所  
能書更積善作  
衛所家向御所能  
書之儀有所見歟  
如何若衛所能書也  
故稱家風欽分明不  
被苦若

道風共云彼道風公記文云前身公聖德聖武後身ハ  
野道風菅大呂鎮西ノ天神御託宣ニ為弘佛法ヲ現弘  
法大師ト為弘手跡現野道風為弘文書現菅道遠相皆  
是三身一軀ナリ

弘法大師入唐ノ時道ニ童子ニ行合給彼童子ナ申テ云  
大師ハ日本唐土ニ聞ヘ九十年書ニテ御座ス我ニ物ヲ書  
テ給ト云大木ニ書給フ童子削之ヲウニ聽テ失畢又怒  
童子此筆ヲ取テカクニ大木ノ裏ニ書徹大師ハ不  
思議ニ思召テ是ハ大聖文珠ト思ヒテ何成處御座ス  
ト問王ハ我ハ五直皇山竹林寺ノ方ニ在トラカキ消ヤウニ  
失又入本是ナリ

菅丞相未救流給前河内國道妙寺ニシテ申伏ノ為清  
書道風ノ墓ニ向テ道風ヲ呼給且時童子一人ヲ具シテ  
冥途ヨリ来テ申伏ノ清書スト云瓦硯ヲ持来ん菅大呂  
不思議ニ思食テ頻ニ此硯ヲ乞留メ給是ハ為来ナリ或云

菅丞相延喜三年二月十五日生年五十九ニシテ安樂寺ニシテ  
薨ニ至テ道風ハ延喜四年ニ生ユリ前後相違如何按道風ハ  
平九年誕生康保三年上月卒歳七十一一説延喜五年ニ生云諸書皆  
康保三年卒歳七十一トアリ生年不同アリ考年數寛平八年誕生  
谷云道風ハ二度出生ノ異本ハ二度ニ度ノ時ハ始ニ吉  
野法六野ノ道風ニ度ノ時ハ小野ノ大臣中比ハ管主吉利  
道妙ト云後ニ道風ト云是且其故ハ宇治寶藏ニ云形ノ  
佛影アリ

道風ハ四國下向ノ時船中ニシテ誰トモ不知老翁ノ白  
張ノ着タル船中ニ来テ額ノ板ヲ持来テ書テ給ラト云  
龍神字ト云此程ハ船モ不支翁モ不帰何事ソト恠時ニ  
翁申テ云此神ト云字ノ下ニ祝ヒノ點ヲ打給ラト云道風  
如所望打給ハ直ニ公羽ハ額ヲトリテウモス船モ行畢又  
按世継物語ニ依理自鎮西到伊予國夢ニ三嶋大明神告ケテ社ノ額  
ヲ書シ云書テ懸之風ヤミ舟ヲ出ス其額ニ云日本惣鎮守三嶋大明神  
トアリ此事ヲ道風ト  
傳ハアヤル也

真ノ筆ハ堅ニ取テ腕頭ヲ折リ筆ノ軸ノ頭ヲ我額ニ  
當テ、真物ヲ書ハ身ニ威儀ヲ調ヘ戒行ヲ守、硯ノ  
面ノ墨ヲ厚ク所ヲ能ク染テ可書シ、筆ヲ染ハ  
霖雨ニ振ノ如ク、尾ノ可染、好ハ筆ヲ檢廻ス、不  
可有、私ニ真物ニ不限筆ヲ染、何モノシ

扇ニ物ヲ書テ、中折、已前ハ不可有書、又折テ後、  
間ニアテカヒテ間ノ中ニ初ラハ二三間斗置テ、藤花、  
落花、ヤウニ字ノ間ヲスリ可ナリ

團ニ物書テ、縦雖有人所望、每左右亦書之、若又  
有書事、義ノカ、銘又道風、書久銘朗詠如  
此物ヲ書、大骨ノ下ノ月ノ輪、不可書懸

釋智永會稽人、晉右將軍王羲之九一作七  
世孫出家居永欣寺、此子以書以義、之為師法、筆  
力縱橫、真草兼備、有祖風、為一時推重、永

其書者戶外之沓、常滿門、國穿穴、以鐵固其限、  
嘗作真草千文、傳于世、學者率模倣焉、  
師宜官南陽人工、隸書、大則一字徑丈、小則方寸、  
千言

劉德昇  
兼真、則謂之真行、兼草、則謂之行草、

遍覽發揮性靈、集卷第三云

敕賜屏風書了、表并詩、或人云、筆論筆  
經、譬言如詩家之格律、詩、是有調聲、避病  
之制、書亦有除病、會理、道詩人、不解聲病、  
誰編詩、什書者、不明病、理、何預書評、又  
作詩者、以詩、古體、為、效、不以寫古詩、為、能  
書、亦以擬古、意、為、善、不以似古跡、為、好、所以振



